



認定特定非営利
活動法人

グループ
ゆう

48号

2024年
4月発行



タイトル『みんなおおきくなったね』

【作：仙台市サンホームの子どもたち】

卒園・進級に向けて、サンホームの絵の具あそびのなかで、みんなで作りました！

— 目 次 —

新年度のご挨拶	P2～3
中期計画の達成状況	P4
保護者勉強会のご報告	P5
『きょうだい』の想いに気づく	
シリーズ『成人期の生活を考える～親亡き後に向けて～』	P6～9
第4回 アパートでの一人暮らし	
オススメスポット情報／地域の病院編『中山吉成さいとう整形外科』	P10
助成金のお礼	P11
スタッフリレー／第14 走者：ワークスペース歩° 歩° 岡田 幸	P12
ご寄付のお礼	P12

新年度のご挨拶

「わからない! 教えて! 助けて!」が言える自分になろう!

昨年、業務評価を改正し、各職位に求められるスキルをより具体化しました。それを試行したところ「求めるレベルが高すぎる」という声がありました。福祉職には、ときに“モデルは神か”と言いたくなるほどの能力が求められます。理想の壁は高く長く、まるで万里の長城並み。幼年期から一人暮らしまでを伴走していますから、業務項目も多岐にわたり、深くすることは宿命です。しかし宿命に向き合う為に、担い手が神になることも一人で担うことも求めています。

業務評価は、自身の得意不得意を知るアセスメントツール。わからない! 教えて! 助けて! が言える自分になる(自立する) 為の助っ人。「一人で抱え込まないで!」「手伝ってと言えることが自立だよ!」と利用者さんにかけている言葉を自身にも掛けましょう。

私たちの目的は一つ。利用者さんの役に立つこと。一人支援は限界と間違いがあります。だから、まず個々の自立。

そして自立した一人ひとりが共同する“チーム支援”でいきましょう。

代表理事 中村 祥子

「一人ひとりの居場所をつくる」ということが、さまざまな共同体の共通の課題で、それができる共同体にはどんな営みがあるのかと、よく考えます。

- … 弱さを支え合う、異質を受け入れる、
ほんの少しの同じ思いを分け合う。
- … 喧嘩したり、なのに慰め合ったり。
絶交したり、なのにすぐ仲直りしたり。
- … それらの振る舞いが、暮らしのそこかしこに、
小さく咲いている。
- … その場所では、不特定多数はいないし、
選んだり選ばれたりもない。
- … 目の前の人をちゃんと見つめ、互いに
“そこにいるひと”としてつきあっている。

理事としてまだ一年目ですが、グループゆうのこれまでの取り組みを知るごとに、そのようなあゆみを幾重に重ねてきたであろう、そのプロセスの重さを感じています。

理事 波多野 卓司

NPO とは、市民の力で社会課題を解決

するために『目的を持って』活動する組織のことを指し、社会の多様化したニーズに応える重要な役割を果たすことが期待されています。

グループゆうは、より厳しい基準をクリアした公益性の高い認定 NPO 法人として、「あったらいいな」を形にし、どんなハンディキャップを持っていても地域で安心して住むことのできる共生の地域作りを目的に、自ら参加して、自分たちに必要なサービスを生み出す活動を行っている団体です。理事でお手伝いをさせていただきもうすぐ一年ですが、代表理事の中村さんをはじめ職員の皆さんや利用している方やその家族など様々な方が「自ら参加して」色々な役割を果たしながら活動を進めている姿を、これからも応援させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

理事 谷津 尚美

令和6年度も引き続き理事として、グループゆうの事業の活性化と働きやすい職場づくりをめざし、努力していきたいと思います。皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

普段は児童発達支援センターの管理者として現場の課題に取り組んでおりますが、令和6年度から児童発達支援センター機能の拡充が求められ、ますます地域全体の子どもの過ごしやす環境や安心できる居場所の確保、家族ぐるみの支援、特に将来の予防的な視点での取り組みが重要になってきます。職員一人ひとりがアイデアを出し合い、つながりあって、法人の理念である「あったらいいな」の支援を引き継いでいけたらと思います。

令和6年度はグループゆうの良さを生かした支援や活動を模索し、実現していきたいと願っております。

副代表理事 菅野 淑江

昨年度理事に選任して頂き、あっという間に一年が経ちました。この一年何が出来たかどうかと考えてみましたが、考えれば考える程反省する事しかなく、振り返るのはやめ「これから」を考えてみる事にします。まだ少し先の話ではありますが、2040年に100万人程の介護職員が不足するという厚生労働省のデータがあります。介護職員とはなっていますが、今の段階でもグループゆうの求人応募数は少なくなっており「人は宝」という事を最近つくづく感じております。

これからはいかにたくさんの方をグループゆうに巻き込んでいけるかが大切になってくると思います。たくさんの方々を巻き込んでいけるグループゆうを目指して、皆さんと一緒に出来る事を考えながら、行動に移していきたいと思っています。まだまだ至らない事が多いですが、どうぞ宜しくお願い致します。

理事 高橋 辰徳

春を迎え、2024年度、新しい年度が始まります。「春(ハル)」の語源は、頑張るの「張る(ハル)」だそうです。年度初めに、気持ちを新たに、活力を漲らせて、頑張らないと、と自分を叱咤激励していますが、老骨に鞭打つのも、少々難儀になってきました。そこで、若い職員の方々を、後ろから支えるサポート役に徹してみたいと考え直してみたいと思います。よちよちと歩き始めの幼児を、後ろから付いて行く親は、いちいち、よろめくたびに、声を上げません。しっかりと付いて行きながらも、声を出さないのです。なぜなら、幼児の真剣さを尊重しているからです。同じように、若い職員が右に左にと戸惑う度に、いちいち声を荒げて注意するのではなく、しっかり見守る力(手を出したくなる気持ちを抑える力=ネイティブケイパビリティ)を、発揮出来たらと肝に銘じたいと思います。

副代表理事 佐藤 裕信

理事に就任してもうすぐ一年になりますが、これまでにない危機的な人手不足や報酬改定による深刻な事業運営に直面し、利用者さんとそのご家族、職員の生活に危機的な影響を及ぼしかねないような状況の中でグループゆうの存続について頭を悩ませてきた一年だったように思います。その中で他法人に学び、グループゆうの力として還元していく機会や今後の継続を期待して下さっている方々から助成金やご寄付等の形で温かいご支援をいただく機会がたくさんありました。これまでの素敵なご縁に心から感謝いたします。新年度もミッションを共有し、協働していくことのできる仲間たちとともに誰一人取り残されない社会を目指して業務に励んでいきたいと思っています。

理事 浅野 弘絵

2021~2023

中期計画の達成状況

『選ばれる支援』

『働きたくなる職場』

『応援したくなる法人』

	事業の方向性	重点項目	三年間の達成目標	達成状況【○達成 △一部達成】																
整備する	利用者ニーズに基づく社会的課題の解決に取り組み、そこで働く人々のサポート体制も充実させます	社会課題の把握 業務評価と適正な処遇の整備 収支バランスの安定 危機管理	①新規事業の運営 ②指定管理の受託 ③処遇・給与の仕組みの明確化（賃金のアップ） ④キャリアラダーの完成 ⑤賞与1.2ヶ月分の支給 ⑥BCPの完成・運用 ⑦危機管理体制の整備	①○ショート・日中一時開設 ②△指定管理サホ-ムのみの受託 ③△評価と給与の流れは共有したが原資不足で賃金アップは未達成 ④○キャリアラダーの完成 ⑤△処遇改善加算を加えての賞与 <table><tr><td>年度</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td></tr><tr><td>(1):処遇改善のみ</td><td>1.7</td><td>1.8</td><td>1.7</td></tr><tr><td>(2):(1)以外</td><td>0.9</td><td>0.5</td><td>0</td></tr><tr><td>(3):(1)+(2)</td><td>2.6</td><td>2.3</td><td>1.7</td></tr></table> ⑥△BCP完成。本格運用は来期から ⑦○職員参加で危機管理委員会の体制を整備し委員会を開催	年度	2021	2022	2023	(1):処遇改善のみ	1.7	1.8	1.7	(2):(1)以外	0.9	0.5	0	(3):(1)+(2)	2.6	2.3	1.7
年度	2021	2022	2023																	
(1):処遇改善のみ	1.7	1.8	1.7																	
(2):(1)以外	0.9	0.5	0																	
(3):(1)+(2)	2.6	2.3	1.7																	
支援する	誰もが住み慣れた場所で安心して暮らすためにノーマライゼーションと地域福祉の推進を図り、良質なサービスの提供をします	人材育成 家族・地域・他機関との連携 利用者支援 家族支援	⑧職位（基礎/中堅/管理者）別研修の実施 ⑨風通しの良い職場環境づくり ⑩各町内での顔の見える関係づくり ⑪法人内の“支援の輪”構築 ⑫法人内での保護者勉強会の開催	⑧△基礎/中堅/管理者研修計画案の作成。実施は来期から。 ⑨○事業所間での自主企画（研修会・留学等）の実施 ⑩△各町内の避難訓練等への参加 ⑪○法人内で、支援事例研修や報告会を実施 ⑫○「きょうだい」をテーマの勉強会開催																
発信する	安心して暮らし続けられる社会のために現場からの政策提言を行い、グループゆうの活動について情報発信をします	政策提言 ミッションの共有 認定NPO法人の継続	⑬ネットワークや法人独自で政策提言を実施 ⑭HP・通信・パンフレットでの情報発信 ⑮新しい法人パンフの作成 ⑯認定NPOの3期目の更新	⑬○仙台市に「地域の複合的な相談窓口」を提言 ⑭○HP:最新情報の発信 通信：4回発行、事業や寄付パンフでの情報発信を実施。 ⑮△法人パンフレットの検討会開催。リニューアルは来期。 ⑯△認定NPOの3期目の更新 更新条件達成、更新予定																
継承する	グループゆうの基本理念に基づいた事業や人材、市民の想いをこれからも守っていきます	次世代運営への移行	⑰新事務局の設置 ⑱新理事体制での運営	⑰△常勤理事の兼務体制で試行したが引継ぎが未達成。 ⑱○外部理事2名を含む新理事体制を整備。																



令和6年1月17日（水）に将監市民センターにて、家族勉強会を実施しました。講師には、認定 NPO 法人アフタースクールぱるけ・代表の谷津尚美氏をお迎えし、これまで多くの『きょうだい児』と言われるお子さん(小学生から成人までの方を含み)への支援をしてきたからこそ見える『きょうだい』の“想い”についてお話を聞くことができました。



なぜ『きょうだい』には支援が必要なのか…？親は半生、きょうだいは一生。親(大人)は自分から情報を得ることができるが、きょうだいたちは年齢が小さいほど自分から情報を得ることが難しい、というお話から始まり、きょうだいの様々な悩みについて、具体的に教えていただきました。そこには、きょうだいが抱える、怒り、不安、孤独感、過剰な責任感、罪悪感、などなど…様々な“想い”があるとわかりま

した。と同時に、障がいのあるきょうだいがいるからこそできる得難い経験もあり、洞察力や寛容さなどが自然と身についているお子さんも多いようでした。

では、親をはじめとした周りの大人たちはどのようにサポートしていけば良いのでしょうか。大切なことは、「条件なしに子どもを認める。ほめる。」ということでした。そして、1対1のスペシャルな時間を作ること、子どもにとって嬉しいことであると教えていただきました。中でも一番印象的だったのは、障がいのあるきょうだいについての質問や悩みについて、“否定しない”ということでした。きょうだい本人の心の声や裏側にある想いに寄り添い共感する、ネガティブな気持ちも受け止める、というお話がとても心に残りました。

当日は、14名の保護者の方が参加してくださり、みなさん大きくうなづきながらお話を聞いていました。小さいきょうだいさんたちが一緒の方も多くいましたが、キッズスペースも用意していたので、和やかな雰囲気の中での勉強会となりました。たくさんの参考書籍もご紹介いただき、本当に学びの多い時間でした。



◎参加者からの感想をご紹介します



[Aさん]

発達障害や病気のある子どもの保護者やそのきょうだい児の想いや悩みを知り、心が痛くなる部分もありました。いつか同じ悩みを持つかもしれないので、親ができるサポートを聞くことができてとても参考になりました。子ども二人の悩みや想いに寄り添ってあげられるような親になりたいと思いました。



[Bさん]

将来、親が死んだあと、どうしても誰かが代表して障がいのある子を支えていくしかないが、みんなで支えていけるよう話し合っていけたらと思いました。「子どもに自分の不安や愚痴を言わない」という話に、とても納得できました。自分も気を付けないといけなと気付けたので勉強になりました。



シリーズ『成人期の生活を考

第4回

アパートでの一人暮らし

シリーズ最後への登壇は、「六丁目農園」で働いていまを実現しています。西脇さん

今回の主人公

西脇 耕一さん (53才)

【地域活動推進センター】
ほっとスペース歩°歩°



畑で畝作り

【就労移行支援】
ワークスペース歩°歩°

お弁当作り



軽食喫茶店で接客

【就労継続支援A型】

六丁目農園



野菜を中心に常時70種類のお料理が並びます



レストランでピザ焼き

CAPTER

1

自分探しの旅

西脇さんは、山形の鶴岡で生まれ、一人っ子として育ちました。幼児期から一人遊びが主で、体のぎこちなさもあったようで、学芸会の発表会等では、他の園児の動きに合わせられなかったようです。小学校では、通常学級に入りましたが集中が続かず、落ち着かないということで支援級に転籍になりました。文字はよく読め、バス停の文字や看板等も覚えられましたが、書くことは苦手でした。中学校・高校と普通級に進みましたが、勉強には集中できなかったそうです。高校卒業後、仙台の専門学校に進み、アパートで一人暮らしを始めました。専門学校卒業後は、パンの製造ラインや交通誘導等の仕事に就きましたが求められる速度についていけなかったり、他者と組んでの業務で意思疎通が難しかったりで、長続きしませんでした。長い葛藤が続きました。この間お母さんを病気で亡くし、お父さんも病氣療養で入院しましたが、遠くに住む親族が心の支えになってくれました。

2005(平成17)年に発達障害者支援法が施行され、その翌年、アーチル主催の発達障害セミナーの案内を新聞で知り、参加してみて、自身の相談窓口だと考えたそうです。早速アーチルに相談を申し込み「アスペルガー症候群」との診断を受けました。その時36歳。やっと出発点にたどり着いたのです。

える ～親亡き後に向けて～』

西脇さんです。西脇さんは、現在アパートで一人暮らしをされながら、就労継続支援A型事業所です。既にご両親は他界されましたが、親亡き後、“自分がこうありたい”と考える生活スタイルのこれまでの歩み取材しましたので、将来の一人暮らしのイメージ作りの参考にして下さい。

〔仙台市地域活動推進センター『ほっとスペース歩°歩°』・計画相談支援『トータルサポートセンターゆう』〕佐藤 裕信



CAPTER

2

自己理解の旅

アスペルガー症候群という診断名を告げられた時、西脇さんは“ホッ”としたそうです。これまで、いろいろなことが思うように進まないことを自分の努力が足りないせいだ、と思い悩んでいたからです。自分の特性として、アスペルガーという「洋服」を上手に着こなしていけばいいと感じたのでしょう。アスペルガー症候群は神経発達の一つのタイプですが、“人の気持ちが読めない”“自分本位の一方的な会話をする”などの負の特性ばかりが強調して伝えられることもあって、告知を受けた人の中には、自分を否定し、人を避けて関わりから遠ざかる(引きこもり等)人もいます。しかし西脇さんは違いました。同じアスペルガーの仲間に出会ってみたいと思ったのです。アーチルを通じて仙台市が設置した地域活動推進センターの「ほっとスペース歩°歩°」に繋がり、多様な特性をもつ幅広い世代の人たちとの活動が始まりました。

ほっとスペース歩°歩°では作業体験や昼食づくり、余暇活動や面談、グループワーク等のプログラムに参加し、仲間と過ごす中で自分の苦手や得意に気付くとともに、苦手や得意のある自分を徐々に相手に受け入れてもらえる体験を積んでいきました。歩°歩°の相談の中で、西脇さんが自分を発見(自己理解・自己認知)した一つを語ってくれました。西脇さんは集中が続かないためにいくつかの職場で苦い経験をしてきましたが、当時していた新聞配達で“チラシ入れ作業”で初めて集中できている自分に気付いたそうです。そして、それは『自閉症の認知特性の強み』で“自身の特性の強み”だったことを知り、『自信』に繋がったそうです。

自信はステップアップへの挑戦につながり、障がいを開示し、強みを生かして障がい者枠での就労を目指そうと、精神保健福祉手帳を取得し、就労移行支援事業所「ワークスペース歩°歩°」に所属しました。就労移行支援事業所での仕事体験は、弁当作りや販売、接客等でした。

その体験を踏まえて、次に就労継続支援A型事業所の「六丁目農園」での実習に移りました。厨房に入り、調理補助や洗浄を行いました。周りの人の動きや声掛けに反応しすぎてしまい、動きが速くなって出来栄にバラツキが生まれてしまいました。特に、視覚刺激が多いと多動性や不注意が表れてしまいます。そこで、厨房から仕切られた“ピザ焼き”の作業に切り替えさせようと、人の動きが目に入らないため集中でき、自分の段取りで作業が進められました。実習現場にあれやこれや協力を頂き、例外の4ヶ月(通常は3日程度)もの実習を経て、就労への道筋が開かれました。

しかし、もう一つの大きな山がありました。



CAPTER

3

『暮らし』を整える

西脇さんは一人でアパートに暮らしていますが、部屋の片づけや整理が苦手。部屋に入ると物がいっぱい、畳が見えません。物が多くなる原因は特性にあり「見えていないもの」は「ない」ことになるため、必要な生活用品が見えないと“買い足す”を繰り返してしまうからなのです。衣類に関しては、洗濯済みの衣類なのか、これから洗濯する衣類なのかの区別がつかない状態で置いてあるので、時に、これから洗う衣類を着て出かけることもあったのです。実習先の「六丁目農園」は食べ物を扱う店舗。清潔が必須要件として求められます。西脇さんの一大事です。

早速、“暮らしの環境”を整えようと、信頼関係のできている職員が集合し、部屋にある物をひとつひとつ確認して、分別や処分を手伝いました。分別した物（書類・衣類等）は、西脇さんが外から見て確認できるように半透明のケースに収納し、ラベルを張る等してそれぞれの物の居場所を決めました。そして、生活スキルの獲得に取り組み、徐々に整理整頓の習慣が身についていきました。しかし生活スキルは、永年繰り返して定着を図らないと、習慣化は難しいものです。そこで、住まいを一人暮らしのアパートから見守りする人がいるグループホームに移し、世話人さんの力を借りて、暮らしの環境を整えようということになりました。

グループホーム「あゆみ」に移ってからは、生活スキルの定着を図るために、世話人さんに定期的（毎週火曜日の10時）に、西脇さんの居室訪問を行っていただき、整頓の維持と清掃・洗濯・ゴミ捨て等を一緒に手伝っていただきました。この支援のおかげで、1年も経つと手伝える必要がない状態にまでなり、顔を出して頂くだけで充分になりました。それに並行して、整容面の課題もクリア出来ました。



▲半透明の衣装ケースに収納

自閉スペクトラム症の方の中には片付けが出来ないという方が多くいます。そこで、第3者が自室に入って手伝えればよいのでは考えますが、そうは簡単にいきません。自分の砦に他者を招き入れることは、そう簡単ではないのです。勝手に環境を変えられるという不安や恐怖を感じるからです。当然のことです。ですから、部屋に入れてもいいと思える信頼を得た人が一緒に「共同注視」（物を一つ一つ取り出して、その思い出を共有し、宝物として眺める）する過程を経て、はじめて物を整理する伴走をすることが出来ると思います。他者にとってはいらない物（レシート等）に見えても、ご本人にとっては“いらない物”ではなく、自分の過去と現在を繋いでいるもので、かつての自分の証なのです。それを他者が共同注視することで、“捨てる”という行動に進むことが出来るのです。片付け（分別や収納）は、他者に教わりながら一緒に行き、使い勝手のよい結果のイメージに繋げることが出来る、徐々に一人で出来るようになり、定着します。

CAPTER

4

『暮らし』と『働き』が整う

2011年6月に、就労継続支援A型事業所「六丁目農園」に就職が出来、グループホームから通う安定した日々がスタートしました。障がい者基礎年金も取得し経済面でも安定しました。その後、病気療養中のお父さんが亡くなりましたが、ご両親の遺影を自室に飾り、見守りながら落ち着いた生活を続けていました。

6年が経過した頃、西脇さんから「一人でアパートで生活できる自信ができました」と相談を受けました。グループうはそのころ、「一人暮らしの住居の選択肢」をテーマにした調査事業を助成金を得て行っていて、その過程で知り合った熱意ある不動産事業者の方に西脇さんを紹介し、本人の希望を伝えました。希望条件は、“職場に自転車を通える範囲にあること”“仕事が休みの前日などに息抜きできる居酒屋がある程度近くにあること”などでした。大家さんに手帳保持者であることの理解を得て、無事に条件に合ったアパートで、再び一人暮らしを始められました。それから5年半が過ぎていますが、生活も仕事も順調です。

取材に伺ったとき、「ほっとスペース歩°歩°」での昼食づくりの経験やグループホームでの食事を思い出して、自分で調理していることを話してくれました。そして、おひたしや茶わん蒸し等の料理の写真を楽しげにニコニコと見せてくれました。

これまでの経験を活かし、こうありたいと願う暮らしを楽しんでいる様子に、本当に良かったと安心しました。



▲自炊されたお食事

CAPTER

5

『ひとり暮らし』を支えるものとは…？

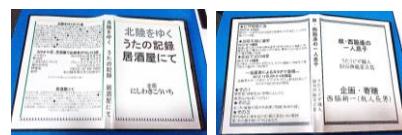
「暮らし」を支えるためには、経済的な保障も欠かせません。西脇さんは、「本当に、基礎年金があって、良かったです。それがないと、がむしゃらに働かないといけなくなり、気持ちの余裕がありませんから。」としみじみ語ってくれました。

10時から17時まで、A型で働き、自宅のアパートに戻って、趣味の暮らしが出来る、この『好き』なものに向き合う時間が、自閉性の方には、絶対に必要です。

「働く(日中の社会参加など)」という「適応」は、自閉性の方には、相当に負荷が掛かります。更に、人からの承認(褒められることなど)や金銭的な見返り(報酬など)も一定程度の快感情を伴いますが、神経系の報酬回路が、より活性化されるのは、「好きなもの」に集中している時です。当たり前ですが、「好きなもの」に向き合える時間が、至福の時なのです。

西脇さんは、バスや電車がすきで、車窓からビデオで景色や建物(案内表示も含め)などを撮っています。その録画ビデオを、PCで編集し、楽しむ趣味を持っています。その土地柄にちなんだ歌謡曲(例えば、津軽海峡冬景色など)を、自分で披露したビデオも挿入し、オリジナルのDVDを作っています。旅の世界を、自分なりに再構成して、その世界を楽しんでいるのです。

かつて西脇さんは、ビデオ映像や編集の趣味を活かして、退職する職場の上司に職場での思い出を記録したDVDをプレゼントしたそうです。その上司は、西脇さんの4ヶ月もの実習を、一緒に付き合ってくれた責任者でもありました。西脇さんの優しさに触れ、彼が今、色々な人の優しさに囲まれているのだと感じました。これからずっとこの生活が続いてくれることを願わずにはられません。



▲西脇さんのDVD編集時の様子と
自作のDVDケース

生活スキルも経済的な基盤も、安定した一人暮らしには必要です。ヘルパーの家事支援やグループホームなどの生活拠点の支援も、必要でしょう。ネットワークを繋ぐ支援も、当然必要です。これらの「環境」を整える支援、ひとりひとりの特性に合ったネットワーク形成、専門性も重要です。

ですが、一番大切なものは、その方が、その方の『好き』なものに向き合える『生きがい』支援ではないでしょうか。『生きがい』は、心の支えになるのだと思います。

CAPTER

6

まとめ

4回に分けて、自立に向けた事例を取り上げてきました。経済的基盤として「就労」、生活スキルとして「家事支援のヘルパー支援」、そして、安全・安心基地としての「グループホーム」の役割をお伝えしました。それぞれ、とても大切な社会資源です。

「自立」とは、一人で何でも出来るようになることではなく、「助っ人(手伝い)」をどれだけ持っているのか、そして、どれだけ、「助けて」を発信できるのかにかかっています。助け先を持ち、必要な時にヘルプを出せれば、良いのです。でも、なかなか、ちょうど良いタイミングで発信できないので、必要時にバックアップできるように、ゆるく『相談』などで繋がっていることが大切です。仙台市地域活動推進センター「ほっとスペース 歩°歩°」の役割は、ここにあります。

そして、最後に、「生きる」を支える「好き」なものの探しこそが、その人の支えになることを、西脇さんの暮らしのスタイルを通して、お伝えたいと思いました。

やはり、『生きがい』なのです。地位や名誉やお金や評価などではなく、純粋に楽しめる『好き』なものの探しです。西脇さんの笑顔に、癒しと憧れを感じる取材でした。



このコーナーは、実際に行ってみたら居心地が良かった、設備が充実していた、スタッフが優しくかった、合理的配慮が感じられた等々、他の誰かにオススメしたい場所を紹介します。

＝今回は日中一時・ショートステイ事業職員からの紹介です＝

地域の病院編

ピーターパンの卒業生のお父さんが地域に開かれた整形外科病院を紹介します！



「中山吉成さいとう整形外科」を4月に開院された齋藤さんご夫妻は、知的障がいのお子さんを育てられた経験上、“自分たちが開院する際は、病院が苦手の方やその家族でも、気軽に足を運べる病院を目指したい”と考えておられたそうです。そんな病院は、私たち支援者にとっても“あったらいいな病院”で、早速取材に伺い、思いを伺う事が出来ました。

齋藤院長ご夫妻から父・母の立場からのメッセージ

私たち自身、子どもを連れての通院は、子どもの体中からの抵抗と医師や看護師さん、他の患者さんへの遠慮等で、心身共にへとへとになりました。

ですから、開院に当り、余分な遠慮をさせてしまうことのない空気が流れる治療の場を作る事が出来たらいいなと思っています。

また、一番怖くて不安な思いをしているのはご本人です。ですから病院で行う検査を目で見て分かり易く説明したり、大勢が居る待合室ではなく、駐車場の車で待っている選択ができたり等の不安を少なくする工夫をしたいと思っています。また徐々に治療の順番等に見通しが持てる配慮をしたいと考えています。

しかし、私たちも全ての方々の特性や苦手感を理解して対応できるものではありませんし、レントゲンやエコー等の慣れない機器が受け入れられない方もいるかと思っています。そんなときも、諦めずにご意見をお寄せいただき、だれもが安心して相談いただける居心地のいい治療の場づくりにご協力いただければ幸いです。

中山吉成 さいとう 整形外科

4月1日月 開院



院長 さいとう たけし
齋藤 毅

【経歴】

弘前大学医学部卒業
東北大学病院
JCHO 仙台南病院(旧宮城社会保険病院)
気仙沼市立病院(旧公立気仙沼病院)
仙台市立病院
山形県立新庄病院
仙台徳洲会病院
NTT 東日本東北病院
東北医科薬科大学若林病院
篠田総合病院
松田病院

【資格】

医学博士
日本整形外科学会専門医
日整会認定運動器リハビリテーション医
日整会認定リウマチ医
がんリハビリテーション研修終了済

診療科目 整形外科リハビリテーション科・リウマチ科

ごあいさつ

はじめまして、中山吉成さいとう整形外科の齋藤 毅です。さいとう たけし
このたび縁あって中山吉成に開業することとなりました。これまでの経験を最大限に生かし地域のあらゆる年齢の方々に整形外科専門医として最適な医療を提供したいという長年の思いがけない大変うれしく思っています。

スタッフ一同、患者さんの痛みや不調に耳を傾け、それぞれの立場にあった適切な治療、アドバイスができるように努め、地域の方々に信頼されるクリニックを目指して参りますので、お気軽にご相談ください。



〒989-3203
仙台市青葉区中山吉成1丁目4-5
中山吉成メディカルステーション1F
TEL 022-341-5852



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祭
9:00~12:30	●	●	●	●	●	●	休
13:00まで	●	●	●	●	●	●	休
14:30~18:00	●	●	休	●	●	休	休



助成金のお礼

木口福祉財団

2023年度地域福祉振興助成

・ショートステイのバルコニーの改修

木口福祉財団より、2023年度地域福祉振興助成にて100万円の助成を受け、ショートステイのバルコニーの改修をすることができました。

これまでは、バルコニーの朽ちている部分からの雨漏りがあり建物本体への影響が懸念されていましたが、防水加工・塗装・雨樋工事等の改修をすることで安心安全なバルコニーへと生まれ変わりました。おかげでショートステイでの布団や洗濯物を気持ちよく干せるようになり、建物1階部分への雨漏りの心配もなくなりました。

一人暮らしの練習や家族支援の大切さをご理解いただき、ご支援頂いたご期待に応えられるよう職員一同全力を尽くしてまいります。

どうもありがとうございました。



愛知揆一福祉振興会

2023年度みやぎ社会貢献助成

・ショートステイの居室環境整備

・人材育成

愛知揆一福祉振興会による、2023年度みやぎ社会貢献助成で大賞を受賞し、300万円の助成金をいただきました。この助成金はショートステイ事業の2人部屋を、プライバシー保護のための1人部屋に改修する費用に使わせていただきます。また、様々な養育環境や障がい特性をお持ちの方に適切な支援を提供することができる人材育成のための研修に使わせていただきます。

審査員の皆様からは「この助成金でたくさんの可能性を見出し、未来に繋がる事業展開をしてください」とメッセージをいただきました。ご期待をカタチにできるよう励んでまいります。どうもありがとうございました。





スタッフリレー

職員が職員に質問したり、仕事以外の自由記述から普段は見えない素顔を紹介する企画です。
第13走者「横澤 佳奈さん」から第14走者「岡田 幸さん」へバトンが渡されました。

- 第14走者：**岡田 幸** おかだ ゆき
- 所属：ワークスペース歩° 歩°
- 勤続年数： 13年
- 出身地： 大崎市



岡田さん教えて！ ※横澤佳奈さんからの質問です

- 好きな動物は：プレーリードッグ ネコ 鳥とか
- 宝くじが当たったら：47都道府県グルメ旅
- グループゆうに入職したきっかけ：「NPO」の看板を見て、これは何だろう…と思って。
- 好きなおやつは：うまい棒チーズ味
- おすすめの場所は：しまなみ海道



自由記述欄

今回、B型を利用されているMさんに、スタッフリレー用の私の似顔絵をお願いしたところ、快く受けてくれました。「オモシロ、おかしく」のリクエストに応じて、アニメのキャラクターからイメージを膨らませ、オリジナルのイラストに仕上げてくれました。頭の上からちょこんと顔を出しているのは飼猫の「リリコ」です。Mさんには「リリちゃん」のことは時々話題にさせていただけなのですが、私と彼女の距離感、関係性をよ〜く表現してくれています！

この制作過程で、嬉しかった事が2つあります。1つは、Mさんが私の気持ちに伝えてくれた事。もう1つは、自宅で過ごしている時間をこのイラストを描く時間に充ててくれたことです。感謝の気持ちでいっぱいです♡



第14走者 岡田 幸さんから、仙台市サンホームの佐藤 春香さんにバトンが渡されます。次号もお楽しみに！

ご寄付を
ありがとう
ございます

2019(R1)年から2024年の3月末までに、延べ500余人の方々からご寄付を頂きました。本当にありがとうございました。ご寄付は、制度で手の届かない支援や、環境の整備、研修等に使わせていただきます。そして、2024年度にⅢ期目の認定更新にチャレンジします。これからも信頼し、応援していただける法人になれるよう事業の質を高め、社会的課題に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【令和6年1月～3月】（※敬称は略させていただきます）

特非あかねグループ、相澤葉子、愛知桜一福祉振興会、青井克子、浅野袖記、浅野史絵、浅野裕一、阿部和樹、阿部淑野、荒木 洋、安藤鉄夫、安藤雪華子、安藤龍一、砂金 悟、内田大輔、内田廣子、遠藤妙子、太田典子、大沼千紘、岡田 幸、小田 聡、小野雄三、(株)泉興業、河岡紗彩、川北信子、川崎せつ子、川村咲子、菅野佳奈美、菅野訓代、菅野造園(株)、菅野紘希、菅野利枝、木村明枝、工藤真貴子、栗原和希、栗原正博、小松原靖子、齊藤恵美子、斎藤幸子、齊藤美貴子、齋藤好恵、齋藤良子、桜井恵美子、笹岡靖子、佐々木永子、佐々木節子、佐藤克枝、佐藤こず枝、佐藤純治、佐藤美沙、佐藤恵也、澤里幸一、澤里友紀、澤里森子、宋戸 稔、柴山ゆみ、清水八千代、菅原菜美、菅原美幸、スプラウト 深沢洋介、関野 緑、高瀬美喜子、高橋永一、高橋貞雄、高橋タエ、高橋とり代、高橋路代、竹内亮子、橘 雄介、田部愛貴、田部清照、丹野 弘、千田常子、千葉慧子、特非まちづくりスポット仙台、虎島秀一、虎島節子、中野広光、沼崎麻衣子、畑中貴之、濱名郁生、濱名則夫、濱本紗智子、早坂郁子、樋口慶江、深畑 亮、増渕マサ子、松木紀子、丸 友樹、丸 瞭子、宮澤宏枝、村上さおり、森蘭 南、門馬 崇、門馬文雄、門馬伸至、門馬美代子、山形友之、横澤佳奈、吉野優美、和田栄子、渡邊 誠

他15名

桜が咲くと震災の年の色のない風景を思い出す。今も天災と人災が世界をめぐっている。 **N**

ゴールデンウィークが待ち遠しい今日この頃。仕事以外もできるといいなあ… **A**

「六丁目農園」の焼き立てピザ等、おいしそうなものがいっぱい。今度行ってみようと思います。 **K**

「六丁目農園」のビュッフェにはたくさんの野菜料理が、中でも茄子が気に入りました♡ **T**